

地球温暖化防止

CO₂の排出量削減をはじめ、
さまざまな視点から温暖化の防止に取り組んでいます。

CO₂排出量の削減

カシオは、2004年度生産高₂酸化炭素(CO₂)の排出量原単位削減において、1990年度対比、2005年度10%、2010年度25%の削減を目標としていましたが、0.48トン・CO₂/百万円と、1990年度比で14%増になりました。

2005年度以降は業態変化等の実態を適切に反映すべく、電機・電子4団体方針に沿って、日銀国内企業物価指数(電機機器)で補正した実質生産高₂酸化炭素(CO₂)排出量原単位を用いて、2003年度比で2005年度10%削減、2010年度20%削減を目標としています。→ P32

CO₂排出量削減に向けた取り組み

CO₂排出量の削減に向けた取り組みとしては、よりCO₂排出の少ない燃料への転換や、コージェネレーションの導入に加え、各拠点においても、それぞれ対策を実施しています。

また、京都議定書では、日本に対して

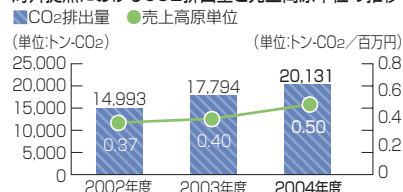
2008年から2012年までに1990年度比6%削減が義務づけられており、これに対応するため、今後、排出権取引などの採用・参画により排出総量の削減に向けて対応を検討していきます。

取り組み事例

カシオマイクロニクスへの取り組み

カシオマイクロニクスでは、工場をフリークーリングシステム(外気の冷めた空気を空調に利用すること)に改造し、電力使用量を削減することでCO₂排出量を削減しています。また、本社(青梅)では、クリーンルーム空調に使用していた燃料を特A重油から都市ガスに切り替え、排出ガスをクリーン化した結果、CO₂排出量を2003年度に比べて2%削減しています。

海外拠点におけるCO₂排出量と売上高原単位の推移



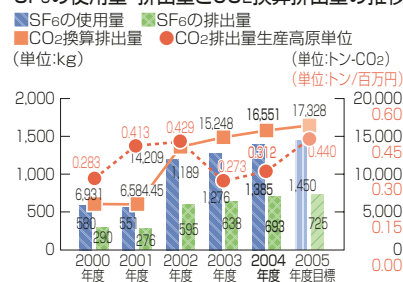
※対象範囲はカシオ上海を除く16拠点です。

その他の温暖化ガスの削減

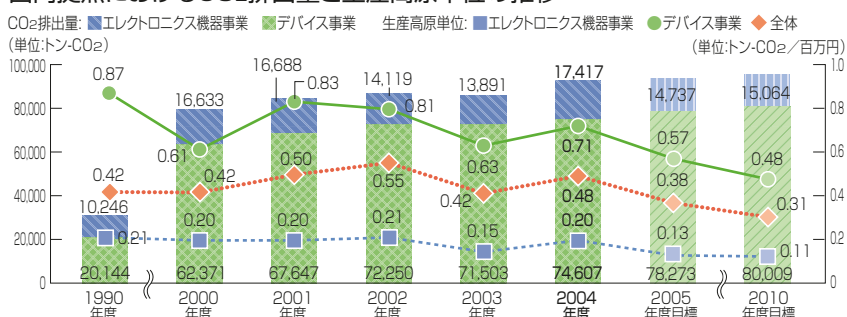
SF₆の低減

カシオでは、製造工程で使用しているSF₆について、昨年まで利用効率を0.75としてきました。今回、専門業者に依頼して成分分析を行った結果、バラツキはあるものの、利用効率は0.5以下と検証されました。加えて、この利用効率は各種条件で変動することから、(社)電子情報技術産業協会(JEITA)のガイドライン値0.5を採用し、ここに過去のデータを訂正して記載いたします。

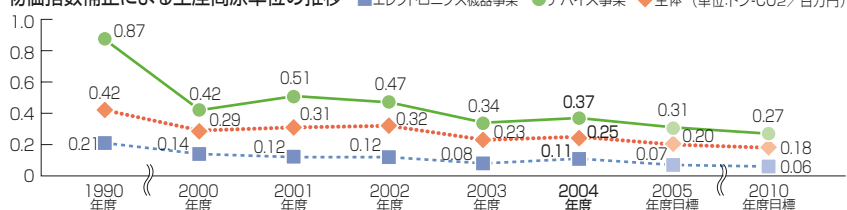
SF₆の使用量・排出量とCO₂換算排出量の推移



国内拠点におけるCO₂排出量と生産高原単位の推移



物価指数補正による生産高原単位の推移



クリーニングガスNF₃の全廃

高知カシオのTFT液晶デバイス製造工程では、従来クリーニングガスにNF₃を使用していましたが、2005年3月までにCOF₂に切り替えました。

NF₃は、京都議定書に定められた6ガスではありませんが、温暖化係数はCO₂換算で10,800倍です。一方、COF₂はCO₂と同じ1倍ですので、使用量が4倍に増えるにも関わらず温暖化への影響は1/2500に削減できます。